

4434



114  
A.3730  
1



鄙見書

大正十一年四月  
隈正侯爵邸寄贈

私共閣下、對し奉り伺り、鄙見ヲ申上候儀ハ恐  
 懼ノ至ニ奉存候得共今、當り株式取引所ノ存廢  
 ハ獨り同所關係人ノ困難ヲ慮スルノ以テ、無之延  
 テ全般ノ高業上、大關係ヲ生スル儀ニ付誠ニ黙  
 止仕彙候ヨリ憚ラ顧ミス申上ル次第ニ御望候  
 取引所條例ハ勅令ヲ以テ御發布相成候モノとし  
 テ苟モ國家ノ法律ナレハ臣民ノ分トシテ之ヲ是  
 非仕候儀ハ不相成儀、候得共其法律ヲ實際ニ履  
 行仕候モノハ臣民其者ナレハ其實地ノ利害ニ就  
 テハ臣民トシテ鄙見ノアル所ヲ申上御参考ノ一  
 班、供スルハ敢テ潛越シハ有之間敷ト信シ候、  
 付私共切カ、新舊取引所ノ利害ニ對シ論究仕候

廉々別冊、相認メ呈供仕奏、付幸、高覧ノ榮ヲ  
給ラハ難有仕合、奉存候

爰、別テ申上候儀ハ私共ハ今更強テ新法ヲ廢止  
セラレシテ、望ムモノ、ハ無之新法ノ精神ヲ實  
地、造り出ス、ハ宜シク其秩序ト時機トヲ察シ  
テ圓滑ニ新舊ノ代謝ヲ果サシテ、希望スルノ旨  
意、御座候蓋シ秩序ト云ヒ時機ト申ハ甲ヨリ乙  
ニ移ルノ間其階梯ヲ履ムノ謂、コシテ恰モ春筈秋  
冬其季ヲ追フテ自ラ移ルカ如ク苟モ急劇ノ変十  
ク漸次ニ舊來ノ慣習ヲ改良シテ以テ完全ノ良法  
ニ移ラシメ、ニコトヲ希望シテ止マサル義、御座  
候私共愚考仕候、新條例ハ歐米文明國ノ良法ヲ  
御採酌アラセラレ我邦ノ高業ヲシテ文明ノ域、

達セシメントノ御趣意ナルコトハ深ク感戴仕候  
儀、候得共凡ソ人事何事、依ラス各其國ノ風習  
積年ノ慣行上ヨリ其利害ノ關係スル所ヲ異ニス  
ル有様有之就中高業ノ如キハ社會ノ鈞合ト相伴  
フテ進歩ヲ講スル、アラサレハ、及令如何程善美  
ノ良法ト雖、世ノ信用ヲ得ル譯、ハ難相成儀  
ト信シ申候

蓋シ事物ノ改良ハ之ヲ誘フヘクシテ之ヲ強エヘ  
カラサレ事肝要ナル義ト存候故、新取引法ヲ示  
シテ徐々ニ此レニ移ルノ道ヲ促シ、傍ラ舊取引所  
ヲ漸次改良シテ新法ニ移ルノ階梯ヲ造ラシムレ  
ハ其秩序平順人ヲ換セス財ヲ破ラヌシテ遂ニ其  
域ニ達スルヲ得ヘシ彼ノ皇々々々蒼天暑往寒来

其季節ヲ追ヒテ畜草木ノ死傷ナクシテ天地ノ大  
機關ヲ運轉スルモノニ異ナラス是レ則チ天理改  
道其揆一ナル儀ト信シ申候就テハ従前ノ株式取  
引所ハ現行株式取引所條例ノ最終期タル名古屋  
株式取引所ノ満期乃チ明治二十四年六月迄之ヲ  
繼續セシメ漸次之ヲ改良シテ新法ニ移ルノ措  
梯ヲ造ルニ於テハ幸ニ當業者ニ於テモ円滑ニ其  
業ニ移ルヲ得ヘク然ラヌレテ一朝舊取引所ヲ廢  
シ俄ニ實驗ナキ新制ノ商規ニ頼ラシメ若シ中道  
ニシテ蹉跌ヲ生シ取引渋滞スルニ於テハ忽チ諸  
株式賣買ノ途ヲ杜絶シ從テ社會財産ノ流通ニ不  
測ノ影響ヲ及サンニ難計ト奉存候誠ニ株式取引  
所ハ理財ノ機関ニシテ重要ノモノナレハ之レヲ

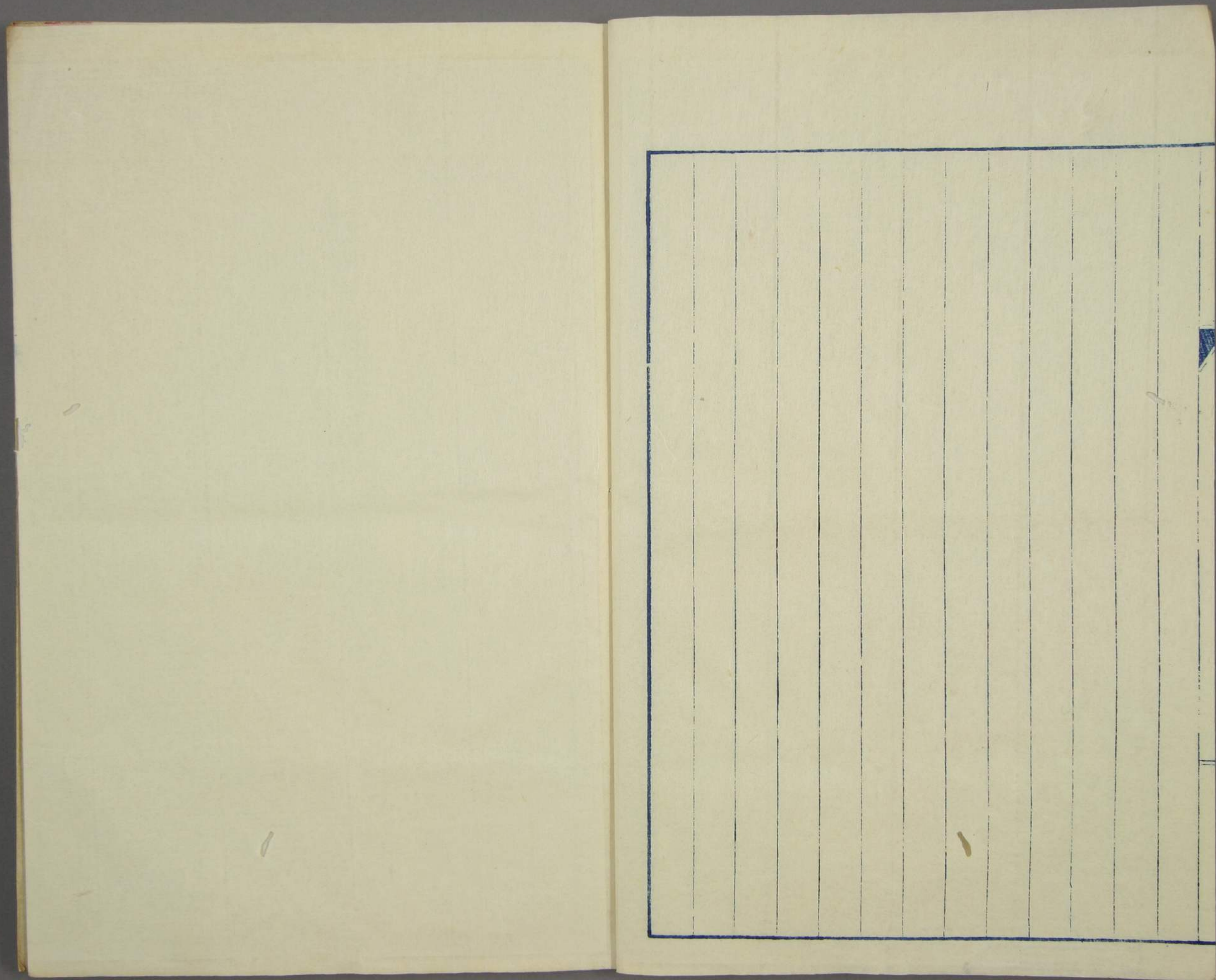
更改スル場合ニハ最モ慎重ヲ加ヘサルヘカラサ  
ル儀、付斯ク申上候次第ニ御座候而シテ歐米各  
國ノ商法ト雖氏多クハ慣例習俗ニ由テ行ハレ候  
様傳義仕候左候得ハ徒ラニ書籍ノミニ據リテハ  
容易ニ其實況ヲ知了候儀ニ至リ氣可申又洋行  
者カ偶實地ヲ目撃スルモノアルモ商況ノ真相ハ  
中々一朝ニ看破シ能フヘキ儀、無之要スルニ我  
邦ノ實業ト外國ノ實業ト相照シテ之レヲ研究  
スルニアラサレハ未タ俄ニ彼レノ真相ヲ領得シ  
タリト信スルヲ得サル儀、御座候依之私共希望  
ノ如ク幸ニ多少ノ歲月ヲ共ヘ給ハ、其年間ニ在  
テ一方ハ飽マテ我取引所ノ改良ヲ講シ又一方  
ニテハ本邦取上ノ實業ニ委シキ者ヲ撰ビ之レ

ラ歐米ハ汎遣ニテ充分其實業ヲ調査セシメ以テ  
將來ノ大成ヲ期セシコトヲ窺カテ企圖罷在奏上  
未申述候鄙見ハ偏ニ閣下御英断ノ如何ニ由テ決  
スル所ナラシテ敬テ憚ヲ顧ミス鄙見ヲ申上候  
閣下ノ聰明幸ニ微衷御諒察被成下矣ハ私共ノ  
幸甚此上ナキ儀ニ御座候殊ニ別冊利害論ハ素ト私  
共相互ノ私議體ニ相認メ候モノナラシテ其文詞  
ノ如キハ或ハ避讓ヲ欠キタル嫌ナキニアラサレ  
氏此儀ハ宜シク御宥恕ヲ給ラシテ頃首謹言

明治廿一年六月

谷元道之

中野武營



新舊取引所利害論

114  
A.3730  
2

新舊取引所利害論

大正十一年四月  
隈正侯爵郵寄贈

凡ソ法律ヲ創設スルハ社会ニ對シ避クヘカラ  
サル必要ノ理由ヲ有セサルヘカラス若シ其必要  
ナクシテ漫ク之ヲ設クルハ徒ラ害ヲ社会ニ播  
クテ過キサレノミ法律創設ノ事既ニ然リ況ニヤ  
舊規ヲ廢シ新規ヲ興スル於テヤ

一昨年来或ル一部ノ商人カブールス新設ヲ企テ  
シヨリ世上ニブールス論ノ喧傳セシ時ニ際シ社  
会ノ輿論ハ果シテ那点ニ存セシヤ之ヲ案スルニ

東京日々新聞(十九年三月九日)毎日新聞  
(二十年四月九日)報知新聞(二十年三月四日)朝野新  
聞(二十年三月廿四日)時事新報(二十年三月廿四日)  
社説(二十年三月廿四日)五大新聞ハ異口同音ニ非ブールスノ説ヲ



唱へテ未タ我邦商業社会ニブールスノ必要ナキ  
ヲ論シ急劇ノ改革ハ社会ノ害タル所以ヲ説ケリ  
是レ蓋シ公論ノ帰スル所ニシテ要スルニ必要ナ  
キ改革ノ為メニ商業上ノ秩序ヲ攪乱シ非常ナ  
混雜ヲ生セシムルカ如キハ有道ナル政府ノ務メ  
テ避クヘキ所以ヲ痛論セシモノナリ  
然リ而シテ政府ハ斯カル輿論ノ喧シキモ聞セ  
ズ遂ニ明治二十年五月ヲ以テ取引所條例ヲ發布  
セラレ其年九月一日ヨリ之ヲ実施セシメ從來ノ  
株式取引所米商会所ハ満期ト共ニ廢絶セシムル  
コト、ナシタリ夫レ此ノ如ク政府ニ於テ銳意断  
行セララル、ヲ以テ觀レハ必スヤ社会ニ對シ避ク  
ヘナラザル必要ノ理由ヲ認メラレシナラント信

スルカ故ニ吾人ハ其必要ヲ聞キ其理由ヲ知ラニ  
テラ勉メタリシニ當時民間ニ傳フル一通ノ文章  
アリ是ソ則チ新條例ヲ設ケ舊條例ヲ廢セントス  
ルノ理由書ニシテ曩キニ内閣ヨリ元老院ニ新條  
例ノ議案ヲ廻付セラレシ時ノ説明書ナリト云ヘ  
リ果シテ然ラハ此説明書ハ当路者カ新條例起案  
ノ精神ニシテ元老院モ亦此精神ヲ認メテ之ヲ通  
過セシメタリモノナルヘシ故ニ吾人カ諷法律ノ  
精神ヲ窺フニハ此説明書ニ勝ルモノアラザルヘ  
シ而シテ此説明書ニ於テ舊來ノ條例ヲ非ナリト  
シ之ヲ廢止セザルヘカラザル理由トナヌモノハ  
左ノ三点ニ過キズ  
第一 株式取引所ハ株式組織ナルカ故ニ株主

専有ノ弊アリ

第三 株式取引所ハ合資会社ナルカ故ニ無用ノ資金ヲ累積シ其利子増徴ヲ謀ルカ為メニ手数料ヲ貪取シ物價ヲ高進セシムルノ弊アリ

第三 株式取引所ハ取引上買戻ノ道アルカ為メニ空賣買ヲ為スノ弊アリ

以上三点ヲ以テ舊條例廢止ノ理由ナリトセハ新條例ハ必ズ之ト及對ナル結果ヲ收メサレヘカラス新設ノ取引所條例ハ果シテ是等ノ目的ヲ達シ得ヘキ歟是レ最モ論究ヲ要スル問題ナリトス何トナレハ此目的ノ實地ニ行ハルト否トハ新法律ノ得失ヲ判別スヘキ要点ナレト

ナリ請フ試ニ之ヲ論セニ

第一項 取引所條例同細則ニヨレハ取引法ハ或ハ立会取引法ヲ用ユルカ如ク又ハ否ラサレモノ、如ク甚々分明ナラス蓋シ其孰レヲ採ルモ取引所ノ撰定ニ任スヘキ精神ナレハシ然レトモ物價ノ公定相場ヲ得ントスルハ取引所設立ノ一大要素ナレハ必ズ此ノ目的ヲ達シ得ヘキ方法ニ依リ取引ヲ為サレメサレヘカラス若シ取引所ノ隨意ニ任セ相對取引法ヲ用ヒシムルトキハ市場ハ常ニ隱岐ナル取引行ハレ所謂「相場」ノ為メニ物價ノ眞位ヲ慫ラレ、コストナキヲ保セズ之レニ及シ立会取引法ハ各商人同時同所ニ集合シ相

互に競賣買ヲナスモノナレハ自ラ物價其眞  
位に歸着スルヲ得ヘシ然レハ取引法ハ表面  
二種アルカ如シト至氏條例に所謂「市價ヲ平  
準」トアルノ法意ヲ實地に施行セントス  
ルにハ立會取引ノ一法に據ラシメサルヘカ  
ラス既ニ立會取引ノ一法ヲ採用セシメント  
セハ各關係人ヲ同時同所ニ集メ之ヲ取締ル  
ヘキ途ヲ求メサルヘカラス然レニ條例にヨ  
レハ同第十二條第十三條ノ資格ヲ有シ第十  
四條に抵触セサルモノハ何人ト至氏會復々  
ルヲ得ヘキヲ以テ會復ノ數或ハ數百人若ク  
ハ數千人ノ上ニ昇ルモノヲ制スルヲ得サル  
ナリ然レトモ此ノ如キ多數ノ會復ヲシテ一

奔に取引ヲ爲サシメントセハ何等ノ方法ヲ  
用フルモ到底之ヲ整理シ之ヲ取締ルヲ得ス  
レテ徒ラ紛擾ヲ生シ其極收拾スヘカラサ  
ルニ至ランノに爰ヲ以テ條例に細則ノ添  
ハテハ到底取引ヲ実行スル能ハストハ東京  
大改新取引所ノ意見モ同轍ニシテ均シク會  
員ニ多少ノ取締法ヲ設ケテ之ヲ制セントラ  
企圖スト聞ケリ若シ夫レ之レヲ止ムヲ得サ  
ル事情トシテ會員ノ加入に制限ヲ置カシメ  
ンカ所謂公共ノ市場ニ爰シテ少數人ノ占有  
所トナリ彼ノ旧條例ノ弊ナリト云フ所ノ株  
主專有ト何ノ擇フ所アラニヤ之ヲ要スルニ  
條例に細則ノ添ハテハ到底取引ヲ実行シ

難ク若シ又之ヲ改正シテ会負ニ制限ヲ置カ  
ントセハ新旧條例興廢ノ第一点タル株主專  
有ノ弊ヲ除却ストノ理由ハ忽チ消滅スヘキ  
ナリ

更ニ一步ヲ進メテ考究スレハ新條例ハ其目  
的ト其方法ト相悞ハサルモノアルヲ發見ス  
ヘシ其故ハ説明書「英國ハ人民ノ私設ニ  
係リ其会負ニ限リアリテ自ラ株トナルト在  
氏合本株金アルコトナク建物ノ如キハ別ニ  
株式会社アリテ之ヲ供ヘ或ハ会負贖金シテ  
以テ之ヲ設ク米國モ亦其組織幾ニト英國ト  
同シク会負ノ寄附金加入金又ハ年賦金ヲ以  
テ之ヲ創立維持スルモノトス其他佛獨蘭露

等ノ諸國、於テハ概シテ府民共同ノ市場ト  
ナシ建物ノ如キハ建設、始メ政府或ハ公債  
ヲ發シ或ハ地方費ヲ課シ或ハ府民ノ負債ヲ  
起シ或ハ地方費ヲ以テ支弁シ其維持ノ經費  
モ亦府民ノ負担ニ係ルモノ多シトスニアル  
如ク取引所ノ經費、對シ政府カ公債ヲ起シ  
或ハ地方費ヲ課スルヲ得ル他ノ佛獨蘭露ノ  
如ク之ヲ府民共同ノモノト為スハ当然ナシ  
氏左ナクシテ之ヲ会員ノ負担ニ歸スル限リ  
ハ英米ノ如ク会員ノ私設ニ屬スヘキハ論ヲ  
據タス要之新條例ハ其根本タル取引所經費  
ノ方法ヲシテ佛獨蘭露ノ如ク公共費ニ由ラ  
シメスシテ徒ラ、其取引所ヲ府民ノ共同物

タラシメト欲スルハ得ヘカラサル結果ヲ  
望ムモノト云ハサルヘカラス蓋シ其根本タ  
ル経費ヲシテ英米ノ如ク人民ノ私設ニ由ラ  
シムル以上ハ必スヤ會員ノ定限ヲ生シ自ラ  
株トナルハ理勢ノ然ラシムル所ニシテ固ト  
ヨリ怪ムニ足ラサルナリ若シ夫レ會員ノ限  
リアルモ可ナリト云ニカ取リモ直サス従前  
ノ株式組織ト毫モ異ナレ所アラサルナリ  
第二項 説明書ノ第二理由則チ株金ヲ無用ノ  
資金ト看做ルハ實ニ實際ノ事情ニ暗キ立  
論ト云ハサルヘカラス請フ之ヲ事實ニ徴シ  
テ論セシ説明書ニハ九年八月米商会所條例  
ヲ布キ云々株式ヲ以テ組織セシメ賣買担保

ノ賣メ、當ラシメタリト云フモ明治九年第  
百五号布告米商会所條例中ハ株式金ヲ以テ  
賣買ノ担保ニ充テシムル條項アラズ其担保  
ノ賣ラ負ハシメタルハ實ニ明治十五年五月  
第二十六号ノ布告ヲ以テ米商会所條例第九  
條第三節乃至第六節ヲ追加セラレタルニ始  
マリレナリ又株式取引所條例ハ明治十一年  
第八号布告ヲ以テ改定セラレタルモ違約人  
ノ處分ハ其三十三條ニ定メラレシ如ク證據  
金身元金ヲ以テ債フニ止メ未タ株式金ヲ以  
テ其不足ヲ債フノ責任アラサリシナリ降テ  
明治十五年第六十四号布告ヲ以テ該第三十  
三條ヲ改正セラレ違約人ノ身元金証拠金ヲ

以テ相手方ノ損失ヲ償フコト能ハサルトキ  
ハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘキコトナリ  
シナリ抑モ此ノ如ク條例ノ改正アリテ担保  
ノ責任ヲ全所取引所ニ付セラレタル所以ノ  
モノハ何ソヤ従来賣買取引上免角隠険ニ涉  
ルノ弊アルニ依リ之ヲ矯正セシカ為メ外  
ナラズ何トナレハ賣買上ノ担保ヲ仲買人ノ  
證據金身元金ニ止ムル時ハ仲買人等ノ信用  
互ニ相異ナルニ依リ毎ニ其對手者ヲ好悪ス  
ルヲ以テ市場ニ立テ競賣買ヲ為スノ不便ヲ  
感シ殊ニ税ヲ拂ヒ口銭ヲ納ムルノ必要ナキ  
ヲ以テ穩密ニ取引スルノ弊ヲ生スルヲ以テ  
ナリ或ハ云ハシ既ニ仲買人ヨリ身元金及證

據金ヲ徴スル上ハ何ソ其對手者ヲ好悪スル  
ヲ要セシヤト是レ思ハサレノ妄言ナリ何ト  
ナレハ賣買ノ未タ成立タサレ以前ニ於テ豫  
メ証拠金ヲ取引所ニ於テ預ルコトハ事實ニ  
於テ為シ得ヘキモノアラサレハナリ現ニ  
新法ニ由テ成立タル神戸取引所規約第百四  
十五條ニ據ルモ賣買規約ノ午前ニ係ルモノ  
ハ午後第一時限リ又賣買規約ノ午後ニ係ル  
モノハ翌日ノ午前第九時迄ニ証拠金ヲ納メ  
シムルニアラサレシ此ノ如ク賣買規約ノ  
後ニ於テ証拠金ヲ徴収スルモノトセハ其間  
ニ違約者ヲ生スルナキヲ保セズ今後リ之  
ヲ前納セシムルノ制ヲ設クルモノトスルモ

賣買約定ノ後其受渡期日前所謂期限中ニ在  
テ天變地異其他非常ノ事故ヨリ俄然物價  
ノ高低ヲ生シ最初ノ証拠金ニテ不足シ追証  
拠金ヲ徴セントスル場合ニ於テ証拠金ノ納  
方ヲ怠リ違約人ヲ生シタルトキハ如何ニ乃  
チ相手方ハ之レカ為メ損失ヲ被ル、アラス  
ヤ既ニ此危険アリトセハ取引上對手者ヲ好  
悪スルハ当然ノ人情ナリ其例証ヲ舉クレハ  
一昨年十一月頃世上ニブールス新設ノ風潮  
喧傳セシ際東京米商會所東京株式取引所ノ  
兩株式非常ニ下落セシ、由リ追証拠金ヲ徴  
セントスル場合、於テ違約者二人ヲ出し其  
仲買人ノ身元金及証拠金ヲ以テ相手方へ辨

償セシムルモ猶不足ヲ生シ遂ニ東京株式取  
引所ハ三萬三千九百拾八圓貳拾錢ヲ償フタ  
リ蓋シ人間ニシテ非常ノ事變ヲ豫知スルノ  
神智ヲ有セサル限りハ此ノ危険ヲ免レサル  
ハシ然ラハ則賣買者ノ外ニ保險ヲ任スル者  
アラサレハ賣買取引ノ安全ヲ得ルモノトイ  
フヘカラス夫レ然リ米商會所株式取引所モ  
明治十五年以前ニ在テハ担保ノ責任ナカリ  
シ故ニ賣買上ノ渋滞ヲ来タシ或ハ違約人ア  
ル場合ニハ俗ニ所謂(泣)ト云フ事ノ弊ヲ生シ  
之ヲ如何トモスル能ハサルヨリ遂ニ明治十  
五年第二十六号及第六十四号ノ布告ヲ以テ  
其損失ヲ償フ責ヲ會所取引所ニ付セラレタ

ル次第ナリ此レ、由テ之ヲ觀レハ株式金ヲ以テ賣買担保ノ責、ト當ラシメタルハ時弊ヲ矯正スルノ所以、トシテ此ノ担保アルカタノ責買ヲ円滑ナラシメタルコト知ルヘキナリ然レ氏強テ此ノ保険ヲ不必要トシ之レヲ廢棄シテ新條例、ト據ラシメハ果シテ説明書ノ精神、如ク手数料ヲ減却シ去ルノ目的ヲ達シ得ヘキヤラ案スル、其事ヤ言フヘクシテ行ハレサレノ事實アルヲ奈何セシ請フ試シ之レヲ論セシ

取引所條例同細則、ヨレハ取引所創立維持ノ費用ハ会員ノ負担タルノミナラス取引所ノ負担、屬スヘキ不時ノ損害ハ会員ノ無限責任、

屬スルモノト云ヘリ夫レ此ノ如ク会員ハ重大ノ責任ヲ負フモノトセハ第一着、疑問ヲ提出セサレヘカラス曰ク会員各自カ負担支出スル所ノ金貨ハ一旦之ヲ出シタル後モ尚ホ其人ノ權利、屬シ其退会ノトキハ之カ返還ヲ受ケ若クハ他人、之ヲ賣讓スルヲ許スヘキモノナリヤ得ク一旦出金シタル以上ハ全ク其權利ヲ離ルヘキモノナリヤ是レナリ若シ一旦出金ヲ為シタル上ハ全ク其權利ヲ離レ所謂寄付金ノ如キ性質トナルヘキモノトセニカ如何、無美當ナレ好事家ト至氏僅々タル利益ヲ目的トシテ幾多ノ創業費維持費ヲ出シ時トシテハ不測ノ損害ヲ無限、ト負担スルノ責、ト當ルモノアラニ



ヤ然レトモ今一步ヲ退キ斯カル性質ノ出金ヲ  
トスモ甘シシテ会負タルモノアリトシテ論セ  
ン、凡ク如何ナル人ト至自己ノ損害ヲ減輕セ  
ント欲スルハ人情ノ常ナルヲ以テ幸々條例并  
細則レヨリ経費ヲ支へ且積立金ヲ為メ  
賣買手数料ヲ徴シ得ルノ自由アレハ汲々トシ  
テ其手数料ノ増徴ヲ謀リ可及的自己ノ出金ヲ  
減シ且不時ノ負担ヲ免カレシラ勉ムナルヘ  
シ然ルトキハ彼ノ舊條例ニ附着セリト謂フ所  
ノ賣買ヲ阻遏シ物價ヲ高進スルノ弊ニ隔ラサ  
ルヲ得サルナリ或ハ之ニ及シ一旦取引所ニ出  
シタル後モ高ホ其出金主ノ權利ニ属スル者ト  
セシカ然ルトキハ其出金タル汲々令資金ノ名ヲ

以テセサルモ明カニ資金ノ実ヲ有スルカ故ニ  
取モ直サス合資会社ノ実タルヲ奈何セン既ニ  
会負タルモノ取引所ニ對シ資金ヲ出し高ホ且  
不時ノ損害ヲ無限ニ負担スヘキ責ニ任スル以  
上ハ汲々其資金ヲ傷ツケサランコトヲ勉ムル  
ノミナラス必ス資金ニ對スル利子ノ配當ヲ求  
ムル手段ニ出ツヘキハ免カレ難キ情勢ナリト  
ス或ハ言ハシ細則第四十八條ニ創業ニ係ル費  
用ヲ辨スル為メ一時負債ヲ起スコトヲ得ル旨  
ヲ明許シアレハ必スシモ会負ノ出金ヲ要スル  
ハアラス又常費ノ如キモ取引所ノ収入ヲ以テ  
之ヲ支フルニ餘リアルヘシ然ラハ創業維持ノ  
費用タル其名ハ会負ノ負担タルカ如シト至氏

實際会員ノ出金ヲ要セザルモノナリ彼ノ不時ノ損害ノ如キハ容易ニ起ルヘキモノニアラサレハ徐々ニ積立金ヲ為シ之ニ備フルヲ得ヘキ故ニ之シカ為メ故ラニ手数料ノ増徴ヲ謀ルカ如キコトアラサルヘシト此論ヤ一ヲ知テ未タ其ニヲ知ラサルモノト云フヘシ蓋シ取引所ハ無形人ナリ之ヲ設立シ之ヲ維持スヘキ義務ヲ負フモノハ会員ナリ左レハ縦令ニ細則第四十八條ニ據リ一時負債ヲ起ストスルモ其負債ノ義務者ハ乃チ会員ナリ其取引所ニ入ル所ノ金員ハ債主カ直接ニ取引所ニ出シタル者ニ非スレテ会員ヨリ出シタル金員ト同シ筋合ナリトス果シテ然ル時ハ取引所ハ顯然合資会社ノ体

ヲ暴露シ隨テ利子増殖ヲ謀ルノ實アリト云フモ過言ニアラサルヘシ何トナレハ既ニ一個ノ無形人タル以上ハ其無形人ニ屬スル積立金及所有物ハ当然会員ノ權利ニ屬シ而シテ其利益ヲ分ツハ乃チ利子ヲ領ツハ異ナラサレハ也要之地方公共ノ經費ニ由ラスレテ單ニ会員ノ私設ニ帰スル以上ハ会員右有ノ結果ハ決シテ免レサルナリ

第三項 説明書ノ第三ノ理由トスル買戻ノ為メニ空賣買ノ弊ヲ生ストテ之ヲ禁遏セントノ希望モ亦タ實際ノ事情ニ暗キ立論ナリトスイカレモ市場ニハ往々奇利ヲ射ントスル者顯ハレサルニアラスト益モ是レ高業上ニ伴フ弊ニ

テ免カレヘカラサレモノナリ然レトモ此弊ア  
リト云フヲ以テ轉賣買戻ノ法ヲ禁遏セントス  
ルハ恰モ食傷ヲ恐レテ飲食ヲ廢スルハ異ナラ  
ズ徒ラニ識者ノ識ヲ招クノミ何トナレハ取引  
上ニ於テ定期中ニ轉賣買戻ヲ許サレトキハ  
市場ノ高業ハ全ク成立サレト至ルヘケレハ十  
リ蓋シ一旦賣買シタルモノニシテ轉賣買戻ノ  
道ナキトキハ其賣買結局ニ至ル迄賣買兩建ノ  
限ニテ繼續シ中頃如何ナル高機ニ至レ如何ナ  
ル損失ヲ重ヌルモ到底之ヲ救護スヘキ途ナキ  
ヲ以テナリ高業ノ中ニ就キ最モ敏捷田端ヲ尊  
フ所ノ定期取引ニ於テ斯カル一大障碍アルカ  
ラハ殆ント定期取引ノ効ヲ實地ニ見ル能ハサ

ルニ至ラントス然リト至レ是非ニ此弊ヲ杜絶  
セントナラハ断シテ轉賣買戻ノ法ヲ禁スルノ  
外ナカルヘシ然レニ新條例ノ細則中ニ轉賣ノ  
道ヲ開キシハ奇ト云ハサレラ得サレノミナラ  
ズ神戸取引所ノ現約第百六十四條ニ依レハ定  
期取引ノ期日前賣主買主双方ノ合意承諾ヲ以  
テ解約スルヲ得ルノ便ヲ開キシハ又以テ怪ト  
呼ハサレラ得サレナリ蓋シ買戻ト云ヒ解約ト  
云フモ其物價ノ差金ヲ取り遣リスルニ於テハ  
毫モ異ナレ所アラズ況ニヤ解約ヨリ生スル弊  
ハ買戻ヨリ生スル弊ヨリ一層甚シキモノヲヤ  
凡ソ貨物ノ供給需用ノ多寡ニ依リテ其價直ヲ  
高下スルモノナレハ其貨物供需ノ多寡ハ常ニ

市場ノ衆目ニ觸ル、ニアラサレハ其平準ヲ得  
ル、由十カルヘシ依之従前ノ買戻法ハ必ス之  
シラ市場主会ノ取引、於テ為サ、ルヘカラサ  
ルカ故、衆人之ヲ周知スルヲ得ヘク之、及シ  
解約ハ賣主ト買主トノ合意、成立ツモノナ  
カ故、何時其賣買ノ解ケタルヤハ取引所へ届  
出ノ有無ヲ調査スル、アラサレハ之シラ知  
ル由ナケレハナリ之ヲ約言スレハ買戻法ハ陽  
頭ニシテ解約法ハ隱秘ナリ其陽頭ナルモノハ  
弊少ク隱秘ナルモノ弊多キハ事物自然ノ教ナ  
リトス然ルヲ陽頭ナル買戻法、弊アリトシ却  
テ隱秘ナル解約法ヲ取ラントスルハ實ニ奇怪  
ト云ハサレヘカラス

上未論スル所ハ従前ノ株主組織ヲ非ナリトセハ  
新取引所ニ於テ会復ニ制限ヲ置クヘカラス従前  
ノ合資組織ヲ非ナリトセハ新取引所ハ府民公共  
ノ費用ト為サ、ルヘカラス従前ノ取引上買戻ノ  
法ヲ非ナリトセハ新取引所ニ於テ解約ノ法ヲ許  
スヘカラス若シ又々之ヲ實地ニ行ハレサルモノト  
シ会復ニ制限ヲ置クモ可ナリ会復ヨリ資金ヲ募  
集シ或ハ借用金ヲ為スモ可ナリ賣買取引ハ解  
約ヲ為スモ可ナリトノ精神ニ改正スルトキハ旧  
條例ヲ非ナリトシ舊組織ヲ廢止スヘシト云ヒシ  
理由ハ爰ニ消滅スヘキナリ  
蓋シ事物ノ改正ハ其急激ナルヲ忌ム理財ニ関ス  
ルノ事物ニ於テ尤モ然リトス苟モ現制ノ弊害ノ

こヲ察シテ之ヲ矯直スルニ熱心ナルカ爲ニ頻リ  
ニ新制ノ利益ニノミ着目シ英断ヲ以テ一時ニ急  
施シ尽ク現制ヲ擧ケテ全廢シ之ニ代ルニ經驗十  
キノ新制ヲ以テスル時ニ新制ノ利益ヲ見スレテ  
却テ現制ノ便宜マテラモ併失フテ其例蓋シ尠シ  
トセサレハナリ所謂新法ノ不便ハ職トシテ是ニ由  
ラサレハナシ夫レ株式取引所ハ英語ニ所謂「スト  
ックエキスチエーション」ニテ實ニ理財ノ樞機タリ  
財政ノ機關タリ殊ニ東京ハ全国理財中心ノ機關  
ト云フモ過言ハアラス試ニ日本帝國ノ公債証券書  
ヲ見シハ其東京ニ管轄スルモノ過半タリ試ニ諸  
會社ノ株式ヲ見シハ其東京ニ蒐集スルモノ過半  
タリ又試ニ公債証券ヲ見シハ其申込ニ於

テ東京ハ常ニ其多数ヲ占メタリ若シ夫レ財本ヲ運  
轉スル機關ニシテ一朝運轉ノ効用ヲ失ヒ或ハ蹇  
跌スル時ニ忽チ社会ノ理財ニ影響ヲ及シ遂ニ恐  
慌ノ大患之ヨリ生セントハ識者ノ常ニ憂慮スル  
所ナリ然レニ多年經驗ノ功ヲ積ミ漸クニシテ今  
日ノ實用ヲ致セル株式取引所ヲ全廢シ直ニ之ニ  
代ルニ經驗ナキノ新制ヲ以テセントセハ果シテ  
其結果ノ那点ニ帰スヘキヤ若シ一度其歩ヲ誤ル  
ニ於テハ邦家ノ財政頓ニ紊亂シ容易ニ收拾スヘ  
カラサルノ不幸ニ隔ラントス是レハ社会全般  
ノ爲メニ懔懼セサルヲ得サルナリ顧ミテ現在ノ  
株式取引所ヲ見シハ新法ノ爲メニ困苦スルモノ  
ハ第一株主仲買人ノ損失隨テ是ヨリ波及スル弊

害ハ其際限アルヘカラス試シ其一ニヲ攀タレハ  
誣株式ヲ抵当ニ取りテ金ヲ貸與セシモノモアラシ  
或ハ株主ノ名ハ一名ナルモ其実ハ數家ノ産ヲ合  
スルモノモアラシ舊士族カ祖先傳來ノ金祿ヲ株  
式ニ換ヘテ權ニ一家ノ維持ヲ其利益ノ配当ニ仰  
ク者モアラシ一家倒レハ俱ニ數戸ヲ覆メ關係ヲ  
有シ所謂將萎倒シノ慘状ヲ社会ニ現出センモ計  
リ知ルヘカラス古人曰ク一利ヲ興スハ一害ヲ除  
クニ君カスト君シ吏シ徒前ノ会所取引所ノ弊害  
ニシテ到底醫膏ニヘカラスニハ萬止ムヲ得スト至  
氏苟モ其修補ノ道ヲ講セスレテ一概ニ舊物取ル  
ニ足ラストシ急激ノ改革ヲ施セハ未タ新制度  
ノ効果ヲ見サルニ其害先ツ生シ財産ノ安固ヲ害

シ社会ノ信用ヲ失ヒ復收拾スヘカラサルニ至ラ  
ニトス凡ツ事物ノ改良ハ穩順ヨ滑ノ道ニ由ルヘ  
シ決シテ急激暴斷ノ手段ニ出ツヘカラス是レ蓋  
シ社会改進ノ真主義ニシテ天理改道亦此外ニ出  
サレナリ然ラハ高業社会ノ進歩ヲ講スルニ於テ  
モ宜シク現在ノ物ニ就テ之ヲ修補改良シ漸ク以  
テ完全無缺ノ成果ヲ期スヘキナリ語ニ曰ク旧慣  
ニ仍ラハ可ナリ何ソ必スレモ改メ作ラニ是此謂  
乎

